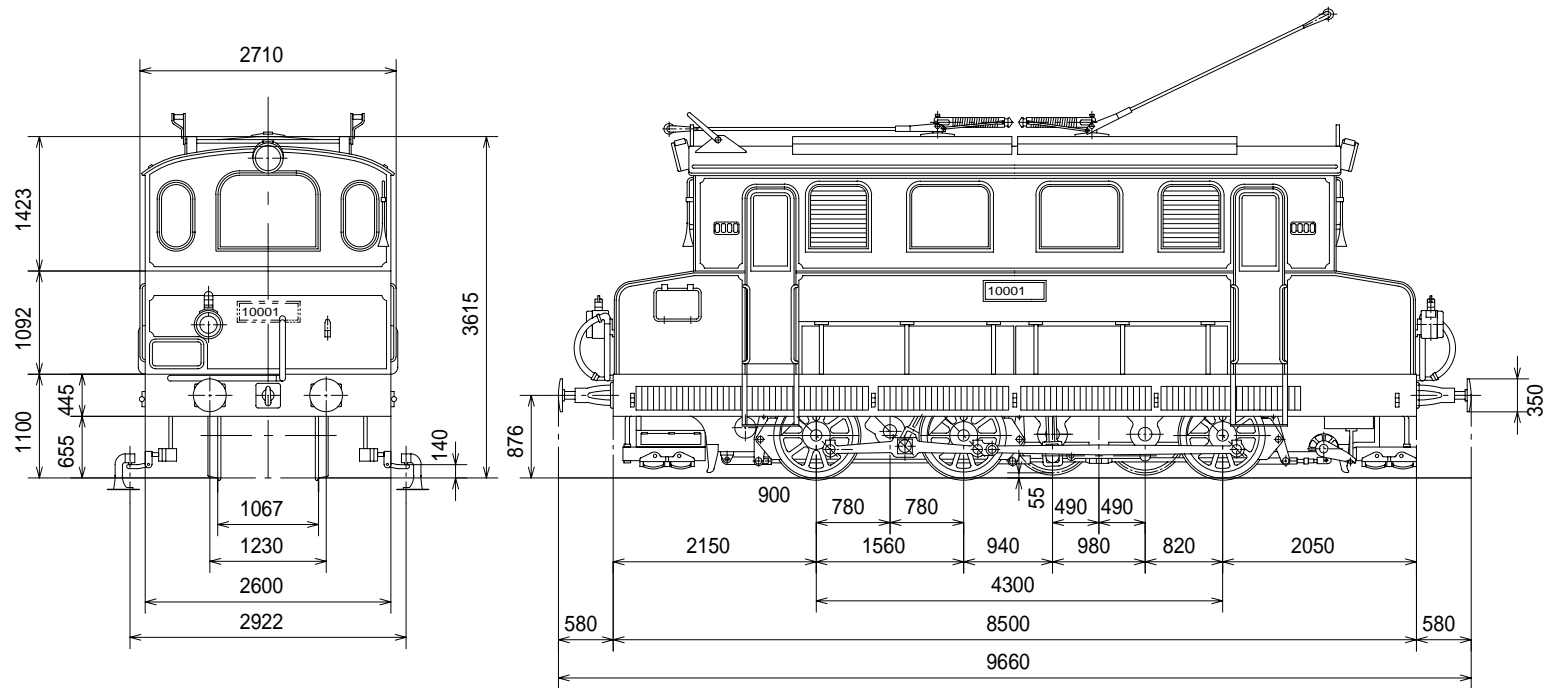


国鉄 10000形アプト式電機機関車 EC40形 形式図



1911年ドイツのAEGで製造されたアプト式の勾配用機関車。

国鉄最初の電機機関車で、信越線横川～軽井沢間のいわゆる碓氷峠で活躍し、歴史的な機関車の一つとして知られている。

凸型の車体内に大きなモーターが2台納まり、1台は車輪、1台はアプト式のためのラックピニオンを動かす。

伝動にはロッドやジャックシャフトが使われている。

アプト区間での集電は外側第3軌条からおこなうので、前後端に集電靴を装備、駅構内ではポール(のちにパンタ)から集電した。

図は輸入当初の頃の姿で、バッファーを付けており、車体はグレーに塗装されていた。

軸数12軸

後年の形式 EC40

1輛が復元して軽井沢駅前に保存